

カワウの生息状況に関する広域モニタリングについて

1. 生息状況に関する広域モニタリングの目的

東北地方において広域的に季節移動するカワウ個体群の全体像を把握することにより、広域保護管理指針の点検および各県におけるカワウ保護管理の計画立案、効率的なカワウ対策の実施、実施結果の評価に資することを目的とする。

2. モニタリング手法

カワウは県境をまたいで広域に季節移動するため、適切にカワウの生息状況を把握し、有効な保護管理計画や対策計画を立案するためには、広域で連携して、同一の時期と手法でモニタリング調査を行うことが不可欠である。

カワウはねぐら・コロニーで夜を過ごすことから、ねぐら・コロニーの個体数をカウントすることにより、カワウの全個体数を把握することが可能である。また、季節移動をすることから、年に3回カウントすることによりその変動を把握することが望ましい。

以上を踏まえ、実施時期、調査項目については、下記に沿って実施するよう努めるものとする。

実施時期	現地調査における調査項目	調査の目的（効果）
春季 (4～5月)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ねぐらおよびコロニーの利用の有無と利用羽数のカウント（基礎情報収集）</u> ・<u>繁殖活動の有無及び巣数</u> ・標識個体の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖前の個体数を把握 ・管理対象となるねぐらコロニーの検討と選定 ・対象コロニーにおける管理手法の検討と選定 ・他地域からの個体流入を把握による地域間での連携体制の検討
夏季 (7月)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>基礎情報収集（春季と同様）</u> ・樹木の枯死状況の確認 ・コロニーにおける幼鳥の羽数 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロニーにおける生産性評価（どのくらい増えているか） ・最も被害が多く発生する時期の個体数を把握 ・樹林被害の確認と対策手法の検討
冬季 (11月～12月)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>基礎情報収集（春季と同様）</u> ・騒音等の生活被害の有無 ・標識個体の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・越冬のための移動による個体数の変化を把握 ・ねぐらの位置の変遷状況の把握によるカワウ対策の適切な時期の検討 ・ねぐらの構成個体の変遷状況の把握による連携体制の検討

※アンダーラインは優先順位の高い調査項目

3. 調査票様式の統一

モニタリング調査に使用する調査票様式は、別添様式を標準とする。